

児童朝会 講話 ■令和4年 6月 6日
No.7 「大隅西 3」

校長先生の言葉は皆さんの心に届いていますか？

さて、6月になりました。運動会も無事終わり、1学期の大きな行事はあとは5年生の林間学校ぐらいで、勉強にがんばる時期となりました。運動会も林間も勉強ですが、教室で行う国語や算数などの勉強こそ、学校で一番力を注がないといけません。そのために、学校ってあるのですから。その毎日の勉強が少しでも面白く、楽しくなるよう、先生方も工夫して授業されていますが、みなさんも「学校は勉強するところ」という当たり前のことを、今一度確認してくださいね。

さて、前回の宿題でした「なぜ大隅という地名ができたのでしょうか？」というのですが、今回も実にたくさんのお友達が回答してくれました。「大阪のすみっこ」にあったからなどが多かったのですが、実はこれについてはいろいろな説があり、どれも正解と言っていいかと思います。ちなみに、先生が調べたところでは「多いに住みやすい街」から大隅と名付けたものがあり、これが一番納得できるものでした。

この東淀川区は、昔から住みやすいところだったんですね。皆さんは、ほんと良い街に住んでいると思います。

ではここまでのお話を、少し振り返ってみたいと思います。まず大隅西小学校は今から40年前に大隅小学校から別れました。その大隅小学校はその時は大隅東小学校のところにあったのです。しかし、大隅小学校は、ずっとそこにあったのではなく、その昔はこの場所にあったのです。でこの大隅小学校は1926年に名前を変えています。もともとは「乳牛牧小学校」と言う名前でした。

ややこしいのですが、太田牧場は、1934年にできていますので、ここで大隅西小、元乳牛牧

そう、当たり前ですが、太田牧場のときもこの場所は広い牧場があったのですが、実はその大昔にも牧場があったとされています。

その証拠の石碑が近くにあるのを知っていますか？



これがどこにあるか知っていますか？

学校の少し南のせせらぎの道の入口のところで見つけました。



これによりますと、「当地付近は、平安時代から乳牛を飼育していたところである。味原牧（あじふのまき）ともよばれ、元慶（がんきょう）8年（884）日本書紀に記載されている。」また、阪急電車の観光案内にも「安閑（あんかん）天皇は535年9月に「牛を難波大隅（ ）に放つ」と記されていること、この付近に乳牛牧があったことにちなむといわれています。」



この人が安閑天皇（466年～536年）です。この天皇が大隅を訪れた

さいに、ここは牛を飼うのにいい場所だ。と言ったところから、乳牛牧が始まったのです。

では、安閑天皇はなぜそんなに牛が飼いたかったのでしょうか？牛肉の焼き肉が食べたかったのでしょうか。残念ながら日本では牛肉を食べる文化は最近のことで、当時は誰も牛のお肉は食べません。また牛乳のためでもありません。これも牛乳を飲むのはこの150年ぐらいのことです。少しまわりの人と聞き合ってみましょう。

当時の人は牛乳を飲む習慣はありませんでしたが、天皇や一部の貴族の間では、栄養剤として牛乳を煮詰めてつくる蘇（チーズ）、牛乳を発酵させてつくる酪（ヨーグルト）を病気のときなどに食べていたそうです。

この大隅に住んでいた人は、税金をその蘇や酪でおさめていたほど、有名で高価なものだったそうです。

では、今週のお題です。

なぜ安閑天皇は、この場所が牛の牧場にふさわしいと考えたのでしょうか？

ヒントは日本書紀のこの文章です。

「安閑（あんかん）天皇は535年9月に「牛を難波大隅（ ）に放つ」

この（ ）にあてはまる言葉を考えてみてください。大隅山？大隅川？大隅村？どんな言葉を入れると牛を飼うのにぴったりの言葉になるでしょうか？

今週も最後まで静かに聞いていただきありがとうございました。